

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390400145		
法人名	有限会社プレミアム・ダン		
事業所名	グループホームおかげさん		
所在地	岡山県 玉野市 玉 1丁目 8番8号		
自己評価作成日	平成26年3月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400145-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390400145-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成26年3月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

一人ひとりの利用者の方がなにか「普通」に暮らせることを願って支援しております。少しの不自由があっても不安や混乱が少なくなるよう支えることを目指して援助しております。ご家族にはご家族にしか出来ない支援をお願いし、本人にとってかけがえのない家族の存在を大切にしたいと考え、ご家族にもお願いしております。事業所として配慮している点は、「人が人をケアする」との考えに立ち、職員の配置を最大限に増やす努力をしております。防災面では2年前から年6回の避難訓練を実施し(内3回は津波・地震想定)万が一の際の人命を最優先に守るための備えをしております。併せて昨年4月から利用者の方が使用されている布団、シーツ類をすべて防災性能を持ったリネンに変更し、防火対策を高めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設して4年目のホームは1階がグループホーム、2階には多目的に使用できる広いスペースがある。このホームは105歳の利用者から10代の若い職員まで、時代で言うところの明治から平成までの幅広い人間の集まりである。ここの特長は何と言っても会話とスキンシップの多さだろう。リハビリを兼ねた手足のマッサージをしながら、利用者にとっくりと寄り添う姿は、他のホームでは余り見かけない光景である。人と人との心の交わりをとっても大切にしている職員の温かい心に触れたような気がした。阪神大震災を経験した社長の危機管理意識は高く、毎年6回の避難訓練を実施し、日頃から緊急時にスムーズに動ける体制を構築している。幅広いネットワークのもと、災害時の二次・三次の避難先の確保や他地域の施設との連携も万全である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り、共有を話し合いの中で再確認をして実践に繋げるように努力しているが、未達成と 思われる	理念を掲示し、目指すのは全人的なケアであり「パーソン・センタード・ケア」をベースに「その人らしく暮らして行く為の支援をする」という共通認識を職員間で図りながら日々の実践に活かそうと努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶をしたり、野菜をもらったり、地域の行事等のご案内をいただいたりしているが、更に様々な機会を通じて交流を図る必要があると思う。	「地域資源との協働」を目標達成計画に挙げ、近くのレクセンターや文化センター等の活用を検討している。地域からの案内で、玉野祭りに参加したり、ホーム前にあるこども園の運動会を見学する等、地域交流も徐々に出来つつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加していただき、ホームで認知症の方がどのように生活しているかを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された要望や意見については、職員と共有し、サービスの向上に繋げるように努力している。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。町内会長、民生委員、地域包括、家族等の参加があり、活動報告・情報交換等をしている。参加した地域の人から介護保険の申請方法の質問がある等、活発な意見交換をしている。	運営推進会議の書類はあるが、議事録としては記録が少ないので、参加者との意見交換の内容等、出来ればもう少し詳しく記録に残しておきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員が2ヶ月1回訪問され、入居者のホームでの生活状況を伝えたり、相談させて頂いたり、それについての助言を頂いている。	2ヶ月に1回、市の介護相談員による相談日を設けている。市社協の制度を利用している利用者もあり、何かあれば、その都度相談し、指導やアドバイスを受けている。市の担当者とは日頃から良い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者のかたの自由な生活を保つために日中玄関等を施錠していない。研修や話し合いを行いながら、身体拘束をしないケアを実践している。	日常的に玄関の施錠はしていないが、利用者の安全面に配慮し、心配り、目配りしながら支援している。身体拘束がテーマの研究発表では全員レポート提出し、勉強会をする等、職員の身体拘束に関する意識の周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修やミーティングを定期的に行い、声掛けなどで 不適切発言があった場合には、職員間で注意し合いながら、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会の機会を設けているが、制度的なことは出来ていない。研修の際に学んでいるが、すべての職員にそれらを、伝え切れておらず活用できるような環境が出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安や疑問点を尋ね、それについて理解、納得をして頂けるように、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際や、面会時などで入居者の方の生活の様子を伝え、ご家族からのご意見や要望をお聞きし、実践に生かすようにしている。	運営推進会議への参加時や面会時等で意見や要望を聞き、話し合っている。利用者の状態の変化に応じて、家族に手紙や電話で連絡をしている。今日も毎週訪問しているという息子夫婦と一緒に過ごしている利用者に出会った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回ミーティングを行っており、意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は10代から50代まで幅広い。社長も時には勤務のシフトに入り、職員の中には看護師が1名いる。月に2回のミーティングを行い、社長・管理者を中心に職員間で日頃からよく話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップによる手当てなど独自のシステムがあり、向上心がもてる様に整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に対して研修の機会を与えたり、事業所内での勉強会や、他の事業所の研修生を受け入れ、職員に対して刺激を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すべての職員には出来てはいないが、同業者同士の食事会などで意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前や契約時で事前に状況の把握を行い、職員間で共有を行う。サービス導入開始時は、密にコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前や契約時、その後の面会時などでコミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様にサービス内容の説明を行いながら、支援内容の確認をして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく業務に集中しないように心がけ、一緒に活動をしたり、一緒にいる時間を増やせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には一緒に過ごせる環境作りを行い、またご家族様に行事等の参加を促しながら、一緒に食事をしたり、談笑したりして過ごせる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の確認のうえ、知人が来られた際には一緒に過ごせる環境を作ったり、ご家族様の協力の上会いに行かれたりしている。	お彼岸に家族が迎えに来て、一緒に墓参りに行く人、家族がよく面会に来てくれる人、毎週2回かかってくる姉からの電話を職員が取り次いでいる人等、職員はそれぞれ本人と家族との関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々の活動を一緒に出来る環境を提供したり、利用者間の相性を把握し、状況に応じて職員が介入しお互いに少しでもコミュニケーションが図れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院等へ移った方に対してもご家族の希望があればサポートするようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で希望や意向が聞けるような声掛けを行っている。言葉で難しい方には仕草や様子を観察し意向を把握するようにしている。	自分で意思表示できる人は4人。テレビショッピングが好きで買いたい商品があれば職員に注文を頼むAさん、入浴を毎日希望のBさん等、思いや意向に耳を傾けている。意思疎通の図りにくい人には、表情やしぐさから心の内を汲み取るよう職員は日々、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に今までの生活歴を聞いたり、以前入居されていた施設の職員に情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に歩いたり、活動を行うことによって現状を把握し、また定期的にバイタルチェックを行っている。それらを記録し職員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に対して担当を作り、担当者を中心として定期的にモニタリングを行っている。	社長が考案したホーム独自の様式を使用し、本人の気持ちや家族の希望を踏まえ、職員間で話し合いプランを作成している。本人の願いや望みを実現し易い具体的な目標を設定し、職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録やスタッフ間が共有できる申し送り簿を作成し、出勤時には目を通すようにしている。また、変更があった際には、朝夕の申し送り時に連絡報告し全員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個々の利用者の方のニーズに合わせた支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の散歩や近隣への外出等を行っている。また季節に合わせて出かけることもある。また希望者の方にはドライブなどの外出も行い楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行い、定期的に往診を受けたり、状況に応じて受診をしている。	全員、ホームの協力医が主治医であり、月1回、往診もある。受診の付き添いは殆んど職員が同行している。週2回は訪問歯科もあり、口腔ケアを受けている人は3名いる。職員に看護師が配置されているのも心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回看護師が勤務しており、バイタルチェックや、医療的な助言、急変時の対応をしてもらっている。また24時間のオンコール体制なので随時の連絡や出勤で対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には看護師や医療ソーシャルワーカーと連携を図り、治療状況の把握や早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においてホームで出来ることをご家族に説明を行っており、又ケアの方針も伝えられている。かかりつけ医、家族と相談しながら方針を検討している。	契約時に重度化した場合や終末期のあり方については本人・家族に説明している。昨年は看取りも経験した。今後も本人・家族から希望があれば、在宅医療に精通しているかかりつけ医と連携を取りながら、医療・介護両面での協力体制の下、出来る限りの支援をしていきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々で勉強したり、急変時マニュアルに則して行動するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は年6回避難訓練を実施している。3回は地震・津波による避難、3回は火災に対する非難としている。	定期的に避難訓練をしている。地震・津波発生時はライフラインの壊れていない所へ逃げる事を基本とし、赤磐市、津山市、新見市の特養を二次、三次の避難先として連携を取り合っている。実際の訓練では、深山公園までの避難を実施している。	地域の支援体制を整える事を目標達成計画にも挙げているが、昨今、頻発する地震対策に向けて、運営推進会議の議題にも図り、地域の協力・連携を進めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人個別に尊重した関わりを行うよう実践している。女性の利用者の方には名前前で声をかけたり、男性の利用者には名字で声掛けを行うなどの配慮もしている。	毎日一人で入浴や自分の物を洗濯したい人には、必要以上に手出しをせず、自主性を大事にしている。排泄への声かけには羞恥心に配慮し、大きな声でなく、耳元でさり気なく言う様に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、なるべく思いを聞いてから支援するように努めている。一方でご本人の意志がはっきり分からない場合もあり、様々な方法で関わるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに出来だけ合わせるよう配慮している。ただ余暇の時間の使い方についてはその日の状況により希望に添えないこともあり、今後の課題の一つととらえている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室や散髪に行かれたり、訪問散髪を利用される方のおられる。身だしなみについては常に気にかけて支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示し、目で見て分かる工夫も行っている。利用者の方の中には一緒に片付けをしてくださる方もいる。また月に1回昼食に「握り寿司」をお出しし、好評である。	ホーム独自のメニューと委託業者からのメニューを組み合わせ提供している。月1回は「にぎり寿司」の昼食が出る。今日は社長が食事作りを担当し、利用者・職員一緒に一汁五菜の美味しい食事をいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表に記入し、把握できるようにしている。状況に応じて水分補給や代替品が提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い、うがいやブラッシングをして頂いている。就寝前には入歯の管理をさせていただいている。口腔ケア困難な方には定期的に歯科往診をして頂き口腔ケアをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しその人の排泄パターンを把握するように努めている。失禁がみられることもあるが、適切なオムツの使用を心掛けている。尿意の訴えがない方には定期的に声掛けにてトイレ誘導を行っている。	立つ事は生きる目的や生きがいに繋がる。職員が利用者に寄り添って立位の練習をしていた。自立歩行、手引き歩行、車椅子等、個々により状態は異なるが、全員、トイレに座っての排泄を支援している。排泄が自立している人も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に散歩や体操等行っている。センナ茶や腹圧、処方されている便秘薬の内服なども行っている。定期的な排便が出来る様今後も工夫が必要と思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調や希望に沿うようにしている。時間帯については、午後から夕方に行っている。	週に2～3回の入浴を基本としているが、「神経痛があるから毎日入りたい」と言う人もいる。「入浴は疲れ易いから週1～2回でいい」と言う105歳の人には、体調を見ながら本人の入りたい日に入浴してもらっている。職員は一人ひとりに合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にご本人様の希望を聞き、1～2時間程度の静養をされる方もいる。就寝時には、個々の入居者の方に合わせ休んでいただいている。寝る前に居室でテレビを見て過ごす方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイリングし、常時確認ができる様にしている。副作用等については看護師に確認することもある。かかりつけ医、看護師との協働を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や外出などの趣味やレクリエーションを行っている。またご本人の出来る役割をしていただいている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に応じて、希望に沿いながら、外出を行っている。行き先は近所の場合もあれば、車で少し遠出をすることもある。	ドライブを兼ねて花見、紅葉見学等の外出支援をしている。日常的には天気の良い日は周辺の散歩に出かけている。本人の希望で職員と一緒に買い物に行き、洋服、化粧品、おやつ等、自分で選んで買う人もいる等、個別の支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際には、本人もちの財布を持って出掛け、その人の能力に応じて使っているが、職員が代わりに行うこと殆どである。また、特定の入居者との買い物が多く、一人一人の希望に応じていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には電話をして安心できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要な物は置かないように努め、廊下の距離感や天井の高さを配慮し圧迫感が無いようにしている。季節に応じた飾りつけもしている。	明るい陽光が差し込むリビングには、今日仕上がったばかりの利用者の共同作品の桜の絵が展示された。「花見に行きたい？」職員の問いに「近所の人とよう行きようたなあ」と利用者。花見の話で盛り上がる。長ソファで休んでいる人、職員と話をしている人、それぞれ思い思いに過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子や机を配置したり、畳みスペースやソファを置いている。また利用者の方の状態の変化に応じて配置を柔軟に変更したりもしている。また相性のあう入居者同士が座れるように誘導したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に使い慣れた物を持ってきていただいたりしている。また家具の配置換えなどの工夫も行っている。状況に応じて必要な物があれば家族に依頼している。	テレビ、仏壇、家族の写真等、馴染みの物を持ち込み落ち着いた寛げる居室となっている。自立に近い人は自分で洗濯して部屋の中に干している人もいる。家族の思いが感じられる様々な飾り付けや工夫もされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすいカレンダーやアナログ時計を設置し出来る限りご本人が自分で分かる様な工夫をしている。		